

<大会開催報告>

初年次教育学会 第4回大会 開催報告

安永 悟
久留米大学

2011年3月11日14時46分18秒、誰もが決して忘れることができない東日本大震災が発生しました。その直後に発生した未曾有の津波により、人々が流され、家々が流され、町が消えて無くなりました。津波によって破壊された福島第一原発事故は未だ収束の見通しさえ立っていません。今回の大震災で犠牲になられた皆さまに、心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。また、亡くなられた1万5867人もの皆さまのご冥福を衷心よりお祈り申し上げます(2012年7月18日現在)。

*

震災直後の大混乱から約半年後、快晴に恵まれた2011年8月31日(水)と9月1日(木)の両日、筑後平野の大自然に囲まれた久留米大学御井(みい)キャンパスにて、初年次教育学会第4回大会を開催することができました。震災の地からは遠く離れた九州・久留米での開催とはいえ、一時は開催を危ぶんだのも事実です。おかげさまで無事開催することができました。被災地からの参加者もありました。参加者全員が被災地の皆様のご苦勞を思い、恵まれた環境で学ぶことのできる喜びを感謝する大会となりました。

本学会は、2008年3月に設立総会(同志社大学)を行い、それに続く3回の大会は関東(玉川大学・高千穂大学)と関西(関西国際大学)の大都市での開催でした。それに引き替え、今回は九州の地方都市での開催でした。交通の便は必ずしも良くありません。それにもまして、関西以西、特に九州地方における初年次教育に対する関心度は未知数でした。むしろ、今回の久留米大会が一つのきっかけとなり、初年次教育への関心が高まり、質の高い初年次教育が九州でも普及することを願っていました。

ところが蓋を開けてみると、大都市圏で開催したこれまでの大会と同等以上の規模の大会となりました。大会参加者は386名でした。内訳は正会員246名、非会員132名であり、学生の参加が8名でした。大会の内容は、個人発表51件、ラウンドテーブル4件、ワークショップ8件、講習会1件、および大会企画シンポジウム1件でした。なお、懇親会の参加者は154名に上りました。予想以上の盛会となり、お世話をさせていただいた実行委員会としては胸をなで下ろす思いでした。

本大会の特徴として、非会員の参加者数の多さを指摘できます。正会員の参加者数は前回の275名に比べると29名下回る246名でした。一方、非会員は前回の86名に対して132名と、約5割増となりました。特に、九州各県からの参加者が目立ち、九州でも初年次教育の関心と需要の高さを確認することができました。これまで大都市圏で開催された大会には参加できなかったが、久留米での開催ということで、福岡を初め近隣地域にある大学関係者が大会に参加していただけたものと判断しています。本学会の全国大会を地方で開催することの意味を、今回の久留米大会で確認できたことは、本学会にとって有益であったと考えています。

本大会の中心テーマは、企画シンポジウムのタイトルに掲げた「初年次教育と協同教育をつな

ぐ」でした。初年次教育の対象領域は広く、課外での活動も含みます。しかし、その中核は大学で日々行われている授業です。その授業をいかに活性化するか。初年次教育で検討されるべき中心的な課題です。今回、協同教育を初年次教育学会の皆さんにご紹介し、活動性の高い授業づくりの一助にさせていただきたい、という思いから本テーマを設定しました。企画シンポジウムでは、協同教育の理論と実践が紹介され、その有効性を確認することができました。今後、協同教育の理論と技法を積極的に活用した授業づくりが広まり、学生一人ひとりが学ぶ喜びを実感し、大学生活を有意義に過ごせるようになればと期待しています。

「つなぐ」という意味では、本大会ではもう一つの試みがありました。それは初年次教育学会とリメディアル教育学会をつなぐという試みでした。まったくの偶然でしたが、本大会の日程を決定する理事会の前日、リメディアル教育学会が9月2日と3日の両日、近隣の福岡大学で開催されるとの情報をえました。そこで、理事の皆さんと協議し、リメディアル教育学会の前日に本大会日を設定することと、できる範囲で両学会の交流を図ることになりました。リメディアル教育学会の実行委員長であった福岡大学の寺田貢先生と連絡を取り合い、幾つかの連携が実現しました。その一つに、リメディアル教育学会の現会長・穂屋下茂先生と前会長・小野博先生を本大会にご招待し、懇親会においてスピーチをしていただきました。逆に、リメディアル教育学会の大会には筆者が招待され、終わったばかりの第4回大会の概要を報告させていただきました。両学会は、大学教育を初年次から変えていくという意味では共通しており、会員の一部は重複しています。今後とも交流を深め、共に大学教育の発展に貢献できればと思います。

最後に、本大会の運営面に関して述べます。今回は、学内にまったく基盤を持たず、実質、一研究室で大会をお引き受けしました。このような無謀とも思える挑戦を支えてくれたのが、心強い仲間存在でした。まず、筆者が主催している「授業づくり研究会」を中心とした仲間です。この研究会では、小学校から大学までの教師が専門や領域を問わず、協同の理念に沿った授業づくりを検討しています。本研究会の主要メンバーが実行委員会の中心的役割を担ってくれました。また、協同教育に関心のある全国の仲間が全面的にバックアップしてくれました。彼らのおかげで、企画シンポジウムを実施することができました。協同の心とつながりがなければ、今回のシンポジウムのみならず、本大会をお引き受けすることもなかったと思います。共に心と力を合わせることの素晴らしさを実感し、実践している仲間に深く感謝したいと思います。

そして、本大会の隠れた主役は直接運営にあたってくれた学部生のみなさんです。彼らは素晴らしい力を発揮してくれました。大会準備から大会当日までの短い期間で実に大きく変化成長しました。彼らにとっても一生の宝になったと思います。彼らと一緒に素晴らしい活動ができたことを誇らしく思います。同時に、彼らの活躍無くして本大会の成功はあり得ませんでした。最大限の謝意を表したいと思います。

多くの仲間助けられ、大会を終えることができました。そんな仲間囲まれ、私は本当に幸せです。ありがとうございました。

なお、本大会では294,980円の余剰金がありましたので全額を「あしなが育英会：東日本大震災・津波遺児募金」に寄付させていただきました。

(初年次教育学会 第4回大会 実行委員長)